

令和7年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上（○）・道徳教育（ ）・キャリア教育（ ）・特別活動（○）
カリキュラム・マネジメント（ ）・その他（ ）（内容： ）

2 学校の概要

<生徒数・学級数（令和7年（2025年）4月現在）>（単位：人）

プロジェクト校（研究指定校）	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
氷川町立竜北中学校	161	23	窪田 智久	菊川 由季

3 研究主題

「安心して学び合える学級集団づくり」

～主体的・対話的で深い学びが展開されるクラスを目指して～

4 研究主題設定の理由

（1）本校の実態から

昨年度から本校は「『心理的安全性』が確保された教室であれば、クラスのみんなが自分の意見や考えを自由に表現し、主体的に学びに取り組む生徒の姿が見られ、学習意欲も向上するであろう」との仮説を立て、研究に取り組んできた。

心理的安全性を見出すための4つの因子として、「話しやすさ」「助け合い」「挑戦」「新奇歓迎」があるが、令和6年度の自校の県学力学習状況調査の生徒質問紙（i-check）の結果より、「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。」（話しやすさ）という質問に対して、「いつもしている」と回答をした現2年生は34.1%（全国22.8%）現3年生は39.1%（全国21.9%）、「クラスの中で、だれかが困っているとき、みんなでその人を助けてあげよう、はげましてあげようとするふんいきが、あなたのクラスにはありますか。」（助け合い）という質問に対して「とてもある」と回答をした現2年生は79.5%（全国38.6%）現3年生は47.8%（全国34.8%）、「勉強やスポーツ、習いごと、しゅみなどで、今がんばっていることがありますか。」（挑戦）という質問に対して「とてもがんばっていることがある」と回答をした現2年生は70.5%（全国64.8%）現3年生は69.6%（全国62.3%）であり、「話しやすさ」「助け合い」「挑戦」に関してはおおむね良好な結果を得ることができた。しかし、「友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いなと思うことがありますか。」（新奇歓迎）という質問に対して、「ある」と回答をした現2年生は15.9%（全国24.8%）、現3年生は19.6%（全国21.5%）で両学年とも全国を下回り、課題があることがわかった。

学習習慣・規範意識についての結果を見てみると、「勉強するときは自分で計画を立てていますか」という質問に対して、「いつも立てている」と回答をした現2

年生は22.7%（全国19.5%）、現3年生は26.1%（全国15.7%）であった。2年生はわずかに全国平均を上回っているものの、本校の生徒の学びに対しての実態としては、先を見通して学習することに関して満足を得られる結果ではなかった。また、「クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして授業に集中できないことがありますか。」という質問に対して、現2年生は11.4%（全国16.1%）、現3年生は13.0%（全国15.5%）で規範意識にも課題があることがわかる。さらに、「自分にはいいところがあると思いますか」という質問に対して、「ある」と回答をした現2年生は65.9%（全国34.6%）、現3年生は41.3%（全国33.8%）で自己肯定感は2年生では比較的高いが3年生は低く「わからない」と答えた生徒が21.7%であった。

そこで、前述の実態を踏まえ、本校生徒の課題を基礎的な学習スキルが不足していることや自己肯定感や規範意識の低さ、主体的・意欲的に学習に取り組むことが出来ていないことと捉え、それを解決するためには、学習習慣の改善とそこから繋がる基礎的・基本的内容の確実な定着、さらに主体的に学びに向かう態度を育成していく必要がある。そのためには、まず「心理的安全性」（話しやすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎）が確保されたクラスづくりを行い、みんなが自分の意見や考えを自由に表現できる土台づくりを行うこと、その上で「学び合い」を目指した授業づくりに努め、「主体的・対話的で深い学び」を実現させることが求められる。

「学び合い」により、自分の考えを積極的に伝えたり、交流したりしながら、学習意欲を高め、さらに、自分の意見が周りの仲間から認められることで、生徒自身が「勉強の面白さ」を実感し、「自己肯定感」を感じさせることが、主体的に学びに向かう態度の育成に繋がると考え、この研究テーマを設定した。

（2）熊本の学び推進プランから

「熊本の学び推進プラン」は、「熊本のすべての子供たちが、『学ぶ意味』を問いながら、『能動的に学び続ける力』を身に付けることを目指す」という理念の下に作られている。それを実現させるために、子供たちに期待する学びの姿が三つ提言されている。

【提言1】ふるさと熊本に根差し、豊かな郷土の創造と自己の向上を目指し、能動的に学び続ける熊本の子供

【提言2】問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める熊本の子供

【提言3】自分の学びの姿を知り、日々たゆまず、自ら学ぶ熊本の子供

本校の生徒の実態をふまえ、現在の竜北中の生徒に特に期待する姿は提言2であると考える。

「熊本の学び推進プラン」の総説の中では、次のように書かれている。

『これからの時代を担う子供たちには、出来合いの答えのない課題に対応する力が求められます。実社会や実生活の中から、自分（たち）なりの問いを立て、自分（たち）なりの方法で、自分（たち）なりの答え（納得解・最適解）にたどり着く「探究的な学び」が求められています。』～p3より抜粋～

このような授業を展開するためには、どうすればよいのか。まずは、教師がそ

れぞれにもつ“授業観”を見つめ直すことが必要ではないかと考えた。

(3) 本校の教育目標から

本校では、「『夢』実現へ向け、主体的に学び続ける竜中生～生徒・地域と共に創っていく学校～」の学校教育目標の下、全職員が協働して子供のよさや可能性を見だし、それを伸ばす教育実践を日々行っている。生徒数が少ないので、一人一人にきめ細やかな指導をすることができる強みがある。

生徒は、全体的に明るく素直な生徒が多く、授業や学校行事、部活動などまじめに取り組もうとする姿勢が感じられ、落ち着いた学校生活を送っている生徒がほとんどである。しかし、学習をはじめとするいろいろな活動に対して、自ら意欲を持ち主体的に取り組んでいるかという視点から見ると、まだまだ不十分な点が多く見受けられる。教師や親から言われたからやるといような指示待ち的な傾向が感じられる場面も多い。また、集団の中で自分の伝えたい意見や感情を適切に表現できないという状況も、授業や日常の諸活動を見ているとよく目にすることがある。その要因には、基礎的・基本的内容の確実な定着ができていなかったり、見通しを持ち計画的に学習することができなかつたりするなど、基礎的な学習スキルが不足していることが挙げられる。また、学力不振や自己の個性や適性についての認識の不十分さなどから、自分に対しての自信が持てず、将来に対して明るい展望が見いだせず、自己肯定感や自己有用感、向上心などが低い生徒も見受けられる。自分に自信を持ち、何事にも意欲を持って主体的に生きる力が必要と考えられる。

5 研究の具体的な取組内容の実際

(1) 研究の仮説

〈仮説1〉

「心理的安全性」（話しやすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎）が確保された教室であれば、クラスの誰もが自分の意見や考えを自由に表現し、主体的に学びに取り組む生徒の姿が見られ、学習意欲も向上するであろう。

〈仮説2〉

教師が「学び合い」を目指した授業づくりを実践すれば、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、生徒が考えを深め、広げることで、「勉強の面白さ」を実感できるだろう。

〈仮説3〉

教師が「学び合い」を目指した授業づくりを実践する中で、生徒同士が考えや意見を交流し、自分の考えや意見が認められれば、生徒の「自己肯定感」がさらに高まるだろう。

〈仮説4〉

生徒が学びの中で「勉強の面白さ」を実感し、「自己肯定感」を高めることで、「主体的に学びに向かう生徒」の育成に繋がり、主体的・対話的で深い学びが展開されるクラスができるであろう。

(2) 具体的な取組

① 各教科における授業改善（授業参観の観点）

- 一 「心理的安全性」（話しやすさ、助け合い、挑戦、新奇歓迎）が確保され、クラスのみんなが自分の意見や考えを自由に表現し、主体的に学びに取り組む生徒の姿が見られるか。
- 二 生徒の思考過程に基づいた指導展開や学習課題の設定・発問の工夫が行われ、「学び合い」をとおして生徒の考えが深まったり、広がったりしているか。
- 三 振り返りの時間などで、生徒自身が「勉強の面白さ」を実感し、「自己肯定感」を高め、次の学習につなげることができているか。
- 四 単元のまとまりを意識し、単元終了時の生徒の姿に近づき、主体的に学びに向かう力がついてきているか。

今年度は1学期に社会科の授業で、2学期に学級活動の授業で2本の大研を行い、大研を行った以外の先生方には全員小研を行ってもらった。参観シートには上記の授業参観の視点を明確に示し、お互いに参観後には参観シートを交換し合いながら授業改善に努めた。

② 研究を深めるための理論研修

ア 熊本の学び推進プランについての講話（講師招聘）

『「問いを生み出す導入の工夫」を話題とした対話を通して、新たな気づきを得て、今後の実践に活かす』というテーマで、熊本県教育庁市町村教育局義務教育課から講師を招聘し講話をしていただいた。まず、「熊本の学び」についての説明をしていただいた後に、「自分で考え取り組むことができる問いや学習課題とするには、どのような工夫が必要か」ということを個人で考えたあと班で意見交流をし、沢山の学びを得られる研修となった。その後の授業で早速実践していた教科もあった。

イ 特別活動についての講話（講師招聘）

研究の具体的取組内容として、特別活動について全職員で研究を深め、子供たちの心理的安全性を高める教育実践の充実をねらいとし、熊本県立教育センターから講師を招聘し講話をいただいた。心理的安全性を高めるための取組例として沢山の学級活動等で活用できるグループエンカウンターや学級活動の取り組み方の例を紹介していただき、大変参考になった。講話後は全学級で実践し、生徒達の心理的安全性を見いだすことができたのではないかと思う。

ウ ICT 研修（講師招聘）

「個別最適の学び、一人一人に応じた学び、主体的・対話的で深い学びを子どもたちにどう提供するか」というテーマで八代市教育委員会教育政策課から講師を招聘し講話をしていただいた。学習課題の提示や配信の仕方や、板書に代わる一斉提示の仕方などのタブレット端末の使用例や、これからめざす授業の方向性

を、次期学習指導要領検討資料を使いながら説明を聞いたことで、より今後の授業に活かしやすくなったのではないかと思います。

③ 心理的安全性を見いだすための各部会での取組

心理的安全性を見いだすための取組として、各部会で共通実践事項を決め、全職員共通理解をした後、実践していった。

ア 特別活動部会での取組

- 短学活
 - ・週に2回は生徒をほめる場面をつくる（教師側が）
 - ・「LOVE シャワー」（ほめほめタイム）（生徒同士で）
 - ・竜中ノートへの学習計画の立案（内容を具体的に）
- 学級活動
 - ・学期のはじめにクラスを繋ぐグループエンカウターの実施
 - ・学期の終わりに「ありがとうメッセージ」
- 生徒会活動
 - ・生徒集会で他学年同士を繋ぐグループエンカウターの実施

イ 授業づくり部会での取組

- 1分前着席・チャイム黙想・挨拶の仕方を揃え、徹底
- きちんと指示をわかりやすく出して、出来たらほめる
- 「めあて」の提示と「振り返り」の徹底
 - *振り返りの視点・・・自分の生活と結び付けて振り返る
- 問いを導き出す導入・展開の工夫
- 教え合い、学び合いの場面の設定

6 目指す成果【検証方法】

4月、11月に行われる学校生活アンケート（生徒アンケート）において、以下の項目の数値目標を生徒ともに設定し、達成を目指す。

（数値の上段は本校生徒の数値、下段は全国値）

質問項目	R6	R7	R6	R7	R6	R7
	小学 6年生	目標値 1年生	1年生	目標値 2年生	2年生	目標値 3年生
1 クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして授業に集中できないことがありますか。 (心理的安全性)	13.3 14.5	46	11.4 16.1	29.7	13.0 15.5	24.5
2 先生はクラスのみんなのことをほめたり、はげましたりしてくれますか。 (心理的安全性)	26.8 58.0	61.5	93.2 55.4	98.3	65.2 52.1	76.3

3 つらいことや困ったことがあったとき何でも本音で相談できる友だちがいますか。 (心理的安全性)	32.3 46.2	33	40.9 46.8	48.9	43.5 45.7	56.5
4 あなたは、クラス全員の一人ひとりのいいところを、言葉にして言うことができますか。 (心理的安全性)	28.8 33.3	29.0	77.3 26.1	78.0	37.0 25.8	49
5 クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか。 (心理的安全性)	22.9 24.4	23.0	34.1 22.8	40.6	39.1 21.9	53
6 学校の授業では、となり同士やグループで話し合ったり、討論したりすることがありますか。 (学び合い)	66.9 53.1	67.0	79.5 49.4	84.5	67.4 48.3	73.4
7 学校の授業では友だちと教え合う時間がありますか。 (学び合い)	58.8 55.4	59.0	86.4 49.1	90.2	76.1 48.0	82.5
8 友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いなと思うことがありますか。 (主体的に学びに向かう態度)	13.2 26.6	19	15.9 24.8	24.7	19.6 21.5	31.8
9 自分にはいいところがあると思いますか。 (自己肯定感)	48.1 38.4	49.0	65.9 34.6	72.7	41.3 33.8	60.3
10 勉強やスポーツ、習い事、趣味などで、自分なりに自信をもっていることがありますか。 (自己肯定感)	74.1 67.3	75.0	40.9 44.6	56.3	45.7 41.2	56.6
11 勉強するときは、自分で計画を立てていますか。 (主体的に学びに向かう態度)	30.8 23.4	31.0	22.7 19.5	35.5	26.1 15.7	35.5
12 あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。 (主体的に学びに向かう態度)	4.9 14.3	8	20.5 12.1	26.3	15.2 12.4	27.7

7 研究実施の実際

回	日付	内容
第1回	4月7日	テーマ提案・校内研修計画、授業研について（構想案・参観シート）（菊川）
第2回	4月18日	各部会検討会（共通実践事項を決める）
第3回	4月30日	研究発表に向けての共通実践事項（各部会）
第4回	5月7日	人権レポート検討会（永井）
第5回	5月21日	第1回授業実践（菊川・社会）講師招聘
第6回	5月28日	校区レポート研（永井）
第7回	6月4日	熊本の学び推進プランについての講話（菊川）講師招聘
第8回	6月18日	学年会
第9回	6月25日	特別活動について（菊川）講師招聘
第10回	7月2日	特別支援教育について（桑田） 元気アップ研修①（4年部）
第11回	7月9日	I C T研修①（俣崎）
第12回	7月16日	各部会の1学期の振り返りと2学期に向けて
第13回	8月27日	人権研修（第3次とりまとめについて）（永井）
第14回	9月3日	全学調分析（吉仲） 元気アップ研修②（3年部）
第15回	9月17日	I C T研修②（俣崎） 元気アップ研修③（2年部）
第16回	9月24日	構想案検討会及びアンケート結果分析①
第17回	10月15日	第2回授業実践（俣崎・学活）講師招聘
第18回	10月23日	職員体育（吉田）
第19回	10月29日	リーフレット作成①（各部会）
第20回	11月5日	構想案検討会及びアンケート結果分析②
第21回	11月19日	リーフレット作成②（各部会）
第22回	11月26日	事前授業に向けての各部会研
第23回	12月9日	リーフレット最終確認・完成
第24回	12月17日	研究発表会に向けての事前授業（菊川）講師招聘
第25回	1月9日	研究発表前日までの準備及び当日の動きの確認
第26回	1月15日	事前リハーサル
第27回	1月20日	「熊本の学び 研究発表会」
第28回	1月21日	発表後の資料整理（各部会）
第29回	1月28日	研究発表反省・校内研修総括（菊川） 元気アップ研修④（1年部）
第30回	2月4日	県学力調査・市学力調査分析（吉仲）
第31回	3月18日	校内レポート研修（永井）

※元気アップ研修（不祥事防止研修）

8 市町村教育委員会の役割及び取組

(1) 「熊本の学び」プロジェクト校（研究指定校）情報交換会（第1回）参加（R7.4.30）
事前に情報交換会の内容や準備資料等について、竜北中学校において確認打合せを行うとともに、学校の課題や取組の方向性について確認を行った。

(2) 授業参観

5月・10月に行われた校内授業研究会に参加し、授業後の授業研究会等について管理職、研究主任と打合せを行った。参観授業においては、意欲的に課題に取り組む生徒の姿がみられた。また、授業研究会においても主体的に協議に参加する職員の姿があった。

(3) 他校の研究発表会への視察

10月24日に開催された甲佐町立甲佐中学校の研究発表会へ、竜北中職員とともに参加し、授業研究会・全体会の進め方、会場設営等について視察した。後日、竜北中学校において、研究発表会当日の運営等について打ち合わせる機会を持った。

(4) その他

義務教育課及び八代教育事務所、熊本県立教育センターの学校訪問・事前授業・構想案検討会等に参加し、研究の進捗状況や課題等について、校長、教頭、研究主任から説明を受け、必要に応じて助言等を行った。当日の公開授業のあり方及びリーフレット作成、学習構想案についても指導助言を継続的に行った。

2年間の研究の成果を生かしながら、更に安定した学校運営ができるよう関わっていきたい。

9 研究の成果

(1) 成果①

特別活動部会を中心として、クラスの仲間をつなぐ取組（ありがとうメッセージ、LOVE シャワー、付箋リレー等のグループエンカウンター）と他学年同士を繋ぐ取組（じゃんけん列車、人間ビンゴなど）を行い、生徒の感想を聞いた。

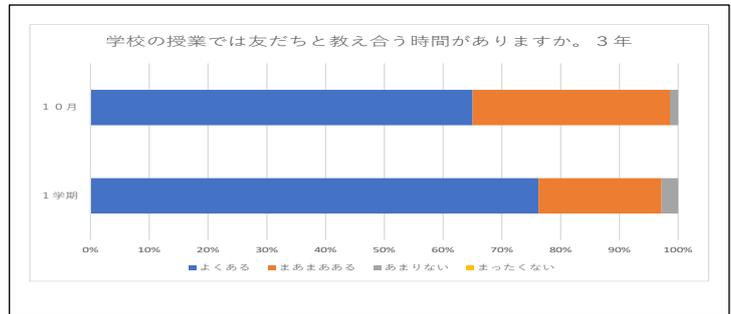
- ・自分を認めてあげられた。些細なところをクラスメイトが見てくれているなど思った。その自分へのメッセージに書いてあったことをもっと伸ばせるように頑張りたいと思った。
- ・普段みんなに伝えることができない言葉を伝えることができ、みんなのメッセージを読んだ後、みんなとの距離が縮まったと感じた。
- ・自分に対するありがとうメッセージをもらって、とても心が温かくなった。
- ・みんなが安心してこの学級に来られるようになったと感じた。
- ・みんながうれしいと思えたり、明るい気持ちになったりするように思って書きました。みんなのありがとうメッセージを読んだときには自分も温かい気持ちになれたから、書いてよかったと思ったし、「ありがとう」があふれる学校になっていったらいいなと思いました。

これらの感想から、生徒たちの「心理的安全性」はより高まってきたと考える。

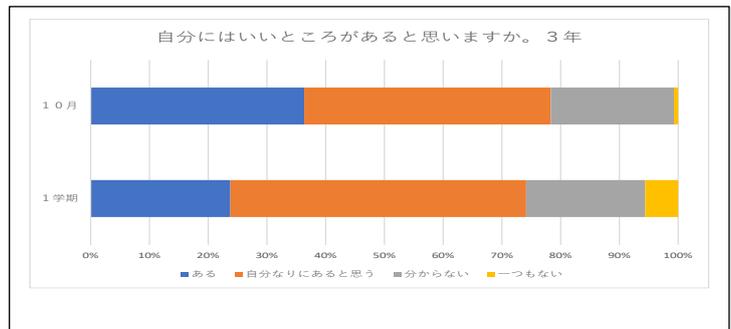
(2) 成果②

今年度の4月と11月の学校生活アンケートの結果の中から6つの項目を抽出し、比較を行った。

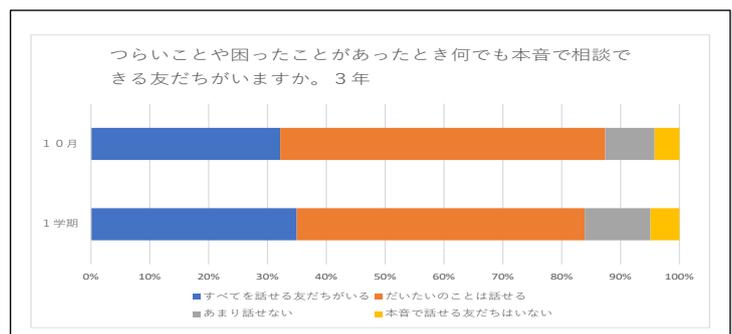
- ①「学校の授業では友達と教え合う時間がありますか」という質問に対して4月の肯定率は97.2%だったのに対し11月の肯定率は98.6%となりわずかではあるが肯定率が上がった。これは教師がペアやグループでの対話的活動を意識して授業づくりを行った成果であると考えられる。生徒の中には「隣同士やグループで話し合う活動が増えて、わかることが増え、勉強をすることが楽しくなった」という声もあがっている。



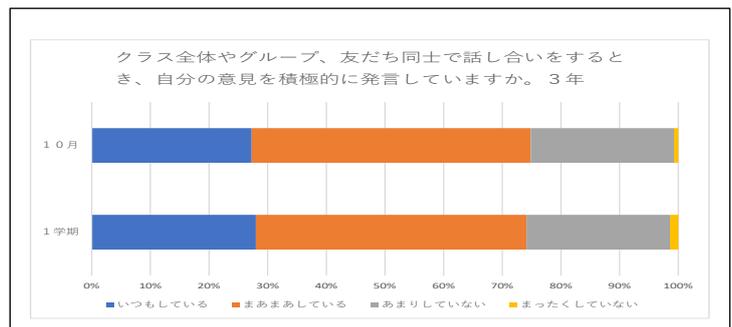
- ②「自分にはいいところがあると思いますか」という質問に対して4月の肯定率は74.1%だったのに対し11月の肯定率は78.4%となり肯定率が上がった。それと同時に「一つもない」と答えた生徒が4月は5.6%だったのに対し、11月は0.7%と大幅に減り、学活等を使いながらグループエンカウンターなどの実践を行ったことが、生徒たちの心理的安全性を見いだすことに繋がったのではないかと考えられる。



- ③「つらいことや困ったことがあったとき何でも本音で相談できる友達がいますか」という質問に対して、「あまり話せない」「本音で話せる友達はいない」と答えた生徒が4月は16.1%いたのに対し、11月は12.6%と本音で話せる友達が増えていることがわかった。これは②の実践と同様、心理的安全性を見いだす取組を行ってきた成果だと言える。

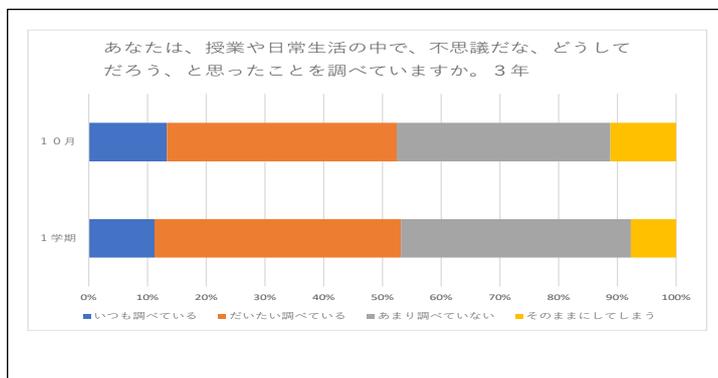


- ④「クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を積極的に発言していますか」という質問では「まったくしていない」と答えた生徒が4月は1.4%だ



ったのに対して、11月は0.7%となり、これまでまったく発言できなかった生徒が減るという結果を得ることができた。これは心理的安全性の確保ができたことで、自分の言いたいことを言える授業づくり、学級の雰囲気づくりができてきた成果ではないかと考える。

- ⑤「あなたは授業や生活の中で、不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べていますか」という質問に対して、「いつも調べている」と答えた生徒は、4月は11.2%だったのに対して、11月は13.3%とわずかではあるが数値は上がった。授業の中でペア学習やグループ活動を積極的に行うことで、自分にはなかった考え方（新しい発見）などに気づき、それが生徒たちの「知りたい」、「学びたい」という主体的で深い学びに繋がったのではないかと考える。

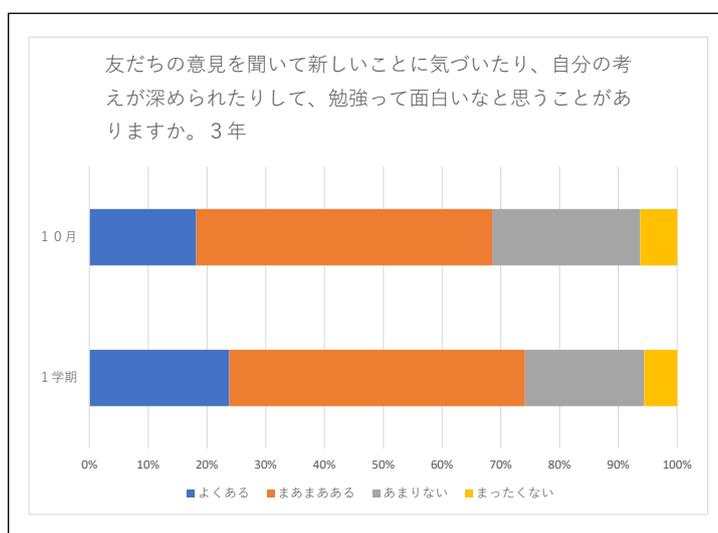


以上のことから、今回の実践を通して、心理的安全性が確保された教室を目指したことで、生徒たちの自己肯定感が高まり、クラスのみんなが自分の意見や考えを自由に表現し、主体的・対話的で深い学びに少しでも近づけたのではないかと考える。

10 研究の課題と今後の展望

今年度の課題としては、「友だちの意見を聞いて新しいことに気づいたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いと思うことがありますか」という質問に対して

「よくある」と答えた生徒が、4月は23.0%だったのに対して、11月は18.2%と減少した。これは、これまでの取組を行う中で、授業の終末で「～について、もっともっと詳しく知りたいです」や「今回は班の人としか意見交流ができなかったが、クラス全員の人でどんな考えをもっているのか知りたいので、クラス全員と意見交流を次はしてみたいです」などの振り返りが書かれており、聞く方、教える方双方の考え方や求めるものが高まり、学ぶ意欲が高まった結果出てきた結果なのではないかと考える。この結果を受け、これからの取組として、我々教師側の教え合いの場の工夫、振り返りのしかたの工夫などの質の向上が今後の課題と考える。



「よくある」と答えた生徒が、4月は23.0%だったのに対して、11月は18.2%と減少した。これは、これまでの取組を行う中で、授業の終末で「～について、もっともっと詳しく知りたいです」や「今回は班の人としか意見交流ができなかったが、クラス全員の人でどんな考えをもっているのか知りたいので、クラス全員と意見交流を次はしてみたいです」などの振り返りが書かれており、聞く方、教える方双方の考え方や求めるものが高まり、学ぶ意欲が高まった結果出てきた結果なのではないかと考える。この結果を受け、これからの取組として、我々教師側の教え合いの場の工夫、振り返りのしかたの工夫などの質の向上が今後の課題と考える。

1 1 研究成果の普及

- (1) 令和8年1月中旬に研究発表会を実施し、熊本県内の学校に参加を募った。
- (2) 本プロジェクトの取組の様子等について、学校ホームページや学校便り等を使い情報を発信した。
- (3) 氷川町教務主任会・研究主任会で取組の報告を行った。
- (4) 氷川町教育研究会・八代教育研究会に情報を発信した。